

Europe Indicators

発表日: 2020年4月30日(木)

欧州経済指標コメント: 1-3 月期ユーロ圏GDP速報

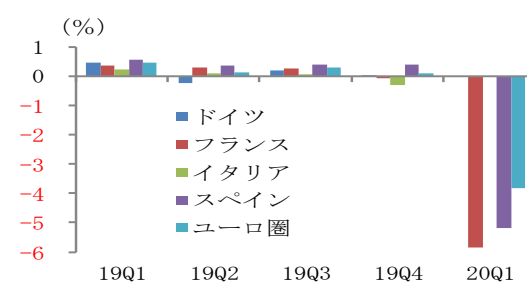
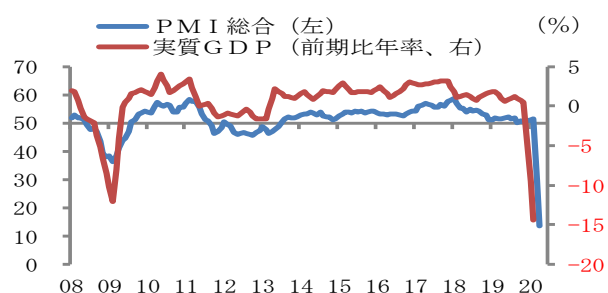
～史上最大の落ち幅も、まだまだ序の口～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

- 1-3月期のユーロ圏の実質GDP成長率の速報値は前期比▲3.8%、同年率▲14.4%と、リーマンショック時の2009年1-3月期(同▲3.2%、同年率▲12.0%)を上回る史上最大の落ち幅を記録。既報の国別計数は、フランス(同▲5.8%)、スペイン(同▲5.2%)、ベルギー(同▲3.9%)が揃って大幅な落ち込み。イタリアとラトビアが間もなく公表予定。3月上中旬にかけて各国が開始した都市封鎖の影響で経済活動が全面的に停止した影響が響いた。
- 需要項目別の内訳が公表済みのフランスは、在庫投資の寄与度(同+0.9%ポイント)が成長率の押し上げに働いたものの、個人消費(同▲6.1%)、政府消費(同▲2.4%)、総固定資本形成(同▲11.8%)、輸出(同▲6.5%)、輸入(同▲5.9%)が揃って大幅減。同じくスペインは、政府消費(同+1.8%)が増加したものの、個人消費(同▲7.5%)、総固定資本形成(同▲5.3%)、輸出(同▲8.4%)、輸入(同▲8.4%)が軒並み大幅減。スペインの業種別GDPは、建設業(同▲8.1%)、サービス業(同▲5.6%)、製造部門(同▲2.7%)、農林水産業(同▲1.4%)。サービス業の中では、芸術・娯楽(同▲11.2%)、卸小売・輸送・宿泊(同▲10.9%)、専門サービス(同▲8.0%)、情報通信(同▲5.5%)の落ち込みが大きい。
- 感染封じ込めを目指した都市封鎖の影響は、3月上中旬以降に本格化した形だが、それでも四半期の落ち込みは記録的な大きさとなった。四半期を通じて影響が顕在化する4-6月期は、前期比▲10%を上回る(前期比年率ではない)前例のない規模で経済活動が落ち込むことが示唆される。

■ユーロ圏: PMI 総合と実質GDP

■ユーロ圏主要国の実質GDP成長率(前期比)



出所: IHS Markit, Eurostat

出所: Eurostat

■ユーロ圏GDP(前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>)

	名目GDP	実質GDP	内需				外需			
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
18/4-6月期	2.9	1.5	(1.7)	0.7	1.8	4.0	(0.1)	▲0.3	3.6	4.7
18/7-9月期	2.1	0.8	(2.3)	0.5	▲0.2	3.9	(1.3)	▲1.5	0.8	4.5
18/10-12月期	3.5	1.6	(1.4)	1.7	2.1	4.8	(▲1.0)	0.2	4.2	4.2
19/1-3月期	3.8	1.9	(0.5)	1.7	1.9	3.7	(▲1.6)	1.4	3.8	1.1
19/4-6月期	2.3	0.6	(5.1)	0.7	1.8	21.4	(0.3)	▲4.5	0.2	11.0
19/7-9月期	2.6	1.2	(▲2.6)	2.0	2.3	▲14.4	(▲0.7)	3.8	2.6	▲5.4
19/10-12月期	2.6	0.4	(3.8)	0.5	1.4	18.9	(▲0.5)	▲3.3	1.2	9.2
20/1-3月期	-	▲14.4	-	-	-	-	-	-	-	-

出所: Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

